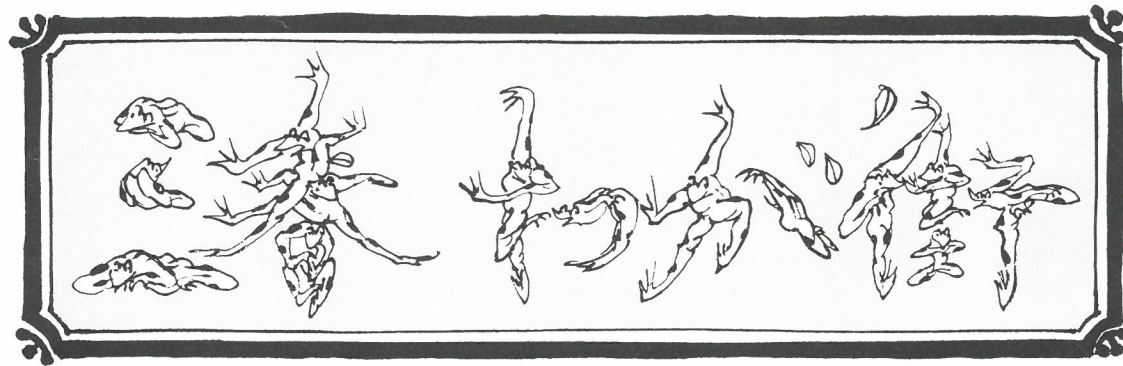




■コミュニティだより VOL.21

特集 「隣組」

ご近所づきあいしていますか？

■発行 三春まちづくり協会

■編集 三春まちづくり協会広報委員会



町 の中で、福原義守さんを見かけたことはありませんか。日本とは地球の反対側、南米はポリビアからわが街三春に来て住むこと四年。どこからみても、すっかり三春の人。でもなぜ三春町に落ち着くことになったのでしょうか？ 私たちが忘れかけていた三春の良さを見い出したのかもしれない。そんな思いで取材にあた

経 歴史をさらに詳しくたどってみると：長崎県に生まれ、小学校四年生の時に家族でポリビアへ移住。幾多の苦勞を味わいながら成人。やがて富希子さんと知り合い、めでたく結婚。元氣な二人の男の子が誕生しました。
平 成三年、二十八年ぶりに義理の弟さんの誘いで通訳として来日。郡

顔

ポリビアから三春へ

二人の子どもが氣にいった町

福原 義守さん(永作)

略 歴

昭和29年、長崎県松浦市生まれ。43歳。
昭和38年、9歳の時、家族と南米のポリビア国サンタ・クルス州へ移住。
レストラン経営、大型農業機械リース業経営、サンタ・クルス日本人会・日本語学校理事の経歴をもつ。
平成3年帰国。平成5年三春へ。自宅は永作3の12。4人家族。

右の写真は、奥さんの富希子さん。(長崎県・壱岐の島出身。2才の時に南米へ渡る)。長男・有吾(ウーゴ)くん(三春中1年生)。二男・良門(ラモン)くん(三春小4年生)。



山にアパートを借り、単身生活が始まりました。勤務先は福島部品(株)と三春工業(株)の二社で、「日系労働者福利厚生業務契約」を結び現在に至っています。

前 に住んでいた八島台のアパートの前にはタヌキが出て来た時は、子供たちは大喜び。カブトムスや捕ったり、近くの小島山公園で遊んだり、三春ダムへ行ったり、キャンプや釣りを



福原さん(左)と奥さん(右)の現在。奥さんは、三春にきた田中・博之さんの奥さんで、現在三春にきています。福原さんは、三春にきた田中・博之さんの奥さんで、現在三春にきています。

さ らに福原さんは三春のことに話しています。よう、話しています。三春は生活しやすい自然環境がいっぱいあるところ。それと、隣組とかの組織があつてコミュニティー

と、すっかり三春が氣にいらしてしまふ。「こんなに自然が素晴らしいところはない」と、子供たちの楽しそうな姿を見て、三春に腰を据える決心がついたといひます。

福原さんの家は、子供たちの友達や、お世話している南米からの人達が集まって来て、いつも温かく賑わっています。

福原さん(左)と奥さん(右)の現在。奥さんは、三春にきた田中・博之さんの奥さんで、現在三春にきています。福原さんは、三春にきた田中・博之さんの奥さんで、現在三春にきています。

福 原さんの仕事名は実によく「日系労働者福利厚生業務」。仕事の内容は、まず南米からの外国人労働者の人たちのスペイン語での通訳から始まり、出入国手続から入社手続、役場への手続、病院での診察手続、日本の法律や

運転免許のこと、買い物の方まで何でも分かるまで教えています。みんなが、慣れない日本で、無事・安全に仕事ができ、快適な生活ができるようにあらゆる援助を惜しまないのが福原さんの仕事なのです。現在二十人ほどのお世話をしています。

三 春にきた二人の子供が氣にいらしてしまふ。ポリビアで住んでいた頃は、車の排気ガスで空気が汚いし、自転車に乗るには危ない、自然のないところだったからです。

翌 年富希子さんが南米から単身生活中の義守さんの様子をみるために突然来日。一ヶ月の滞在でした。その時のことを福原さんは、「三春まで仕事についてきた家内は、この町を見て、その時から子供を連れて三春で暮らすことを考えていたみたいです。」と話しています。



「みはるっこの会」が主催した「フォークローレの集い」に、懐かしい南米のメロディを求めて集まった、福原さんとその仲間。街で見かけたら「ブエナス・タルデス」(こんにちは)と声をかけてください。

あいしていますか？

今日本では、急速に高齢化、核家族化が進んでいます。わが三春町も決して例外ではありません。私たちは、こうした社会に対応した暮らし方を、さまざまな面から考えていかなければなりません。

「三春わが街」では、「近所づきあい」のあり方を考えることを通して、これからのまちづくりの方向を探ってみようと思います。

今回の特集は、「近所づきあい」と切っても切れない「隣組」を中心に考えてみました。

「隣組」って何？

「隣組」は、いつごろ、どのようにしてできたのでしょうか。

「隣組」とは、第二次世界大戦中に設けられた、当時の国の方針を国民一人一人まで徹底するための地域組織だったのです。

福島県では、昭和一五年一〇月一日福島県知事より各町村に発せられた訓令「部落会町内会等整備要領」によりできた組織で、町の場合は、町内をいくつかのブロックに分けて町内会を置き、それをさらに一〇戸内外に区分して隣組をおくようになりました。

しかし、この組織を根づかせることは容易なことではなかったようです。そこで政府はソフトタッチな「隣組」の歌を国民歌謡としてラジオを通じて全国に流し、歌を通じて大々的にアピールし、その定着を図りました。

終戦により、昭和二二年にこの制度は制令で廃止されました。この「隣組」も戦後の民主化に伴い新しく生まれ変わり、以来五〇年以上受け継がれてきまし

た。（「三春町史」参照）

例えば、現在八幡町の規約には、「本会は、地域の親睦・教養・生活を通じ、ふれ合いのある豊かな住みよい地域の実現と自治意識の高揚を図り、町発展に寄与することを目的とする。」とあります。

「隣組」アンケートから

まちづくり協会では隣組の実態を調べるために、アンケート調査を実施しました。アンケートの内容とその

結果は別表の通りです。二一九組の隣組長さんをお願いして、一八四組（八四％）から回答をいただきました。

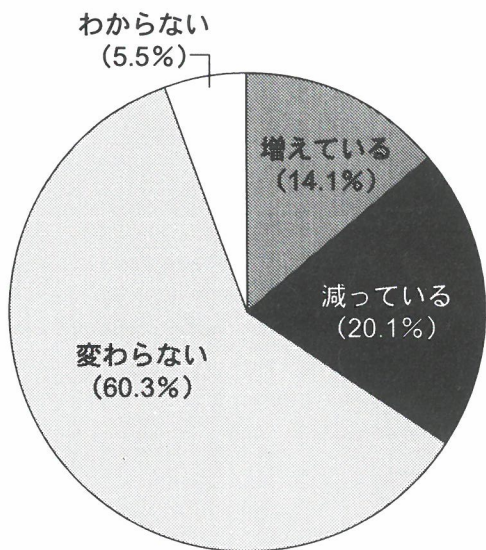
戸数は減少傾向

問一は、組の戸数についての質問ですが、最少二戸から最大三二戸であり、ひとくちに「隣組」といってもさまざまな規模であることがわかります。グラフからもわかるように、八戸の組が一番多いという結果でした。

字別では、小さな組（五戸以下）が多いのは、大町と北町でした。反対に一六戸以上の大きな組が多いのは、八幡町と八島台という結果でした。

問二では、組の戸数の増減の傾向について聞きました。結果は円グラフで表わしてありますが、約六割が

問2 組の戸数の増減の傾向



戸数の変化はないという一方で、減少傾向の組が約二割あり、増加傾向の組より多くなっています。

字別では、八島台の増加傾向が目立ち、減少の傾向が大きいのは八幡町、大町、北町でした。

組の規模で比較してみると、一〇戸以下の比較的小さな組で減少傾向があり、一六戸以上の大きな組で増加傾向が見られます。

お花見は約半数の組で

問四は、隣組の行事やおつきあいについての質問ですが、「葬式の手伝いなど」が九一％とほとんどの組で行われている他、「お花見など」の組のコミュニケーションのための行事が四五％以上の組で行われていました。

字別では、「お花見など」は中町、荒町、八島台で盛んに行われており、「掃除など」の奉仕作業は、中町、八幡町、北町で多く行われているようです。

「隣組アンケート」

字別集計

字	回答数	問1 (組の戸数)				問2 (戸数の増減)				問3 (家族構成)						問4 (行事やおつきあい)					字
		1~5戸	6~10戸	11~15戸	16戸~	増	減	不変	不明	お年寄	若年	2世代	3世代	他	不明	花見	葬式	結婚式	掃除	他	
大町	20	7	10	3		1	7	8	4	7		8	3	1	1	1	15	3		2	大町
中町	17		5	7	5	1	4	12		4		9	2		1	13	17	7	11	3	中町
八幡町	31		8	12	11	4	11	14	2	4	1	20	4	2	1	15	30	13	19	5	八幡町
荒町	40	2	22	11	5	4	6	29	1	12	2	20	2	4	1	30	37	19	16		荒町
新町	30		16	10	4	3	3	23	1	10		14	1	4		9	27	10	9	3	新町
北町	24	6	15	3		1	6	17		10		12	2			3	23	8	19		北町
八島台	21	1	9	4	7	12		7	2	2	1	15	1	1	1	12	18	3	10	6	八島台
不明	1			1				1				1				1	1				不明
合計	184	16	85	51	32	26	37	111	10	49	4	99	15	12	5	84	168	63	84	19	合計

特集「隣組」 ご近所づき

「隣組に関するアンケート調査」集計結果

実施総数219通 回答184通（回答率84%）

- 問1 あなたの組の戸数は何戸ですか。
- | | |
|--------|------------|
| 1～5戸 | 16 (8.7%) |
| 6～10戸 | 85 (46.2%) |
| 11～15戸 | 51 (27.7%) |
| 16戸以上 | 32 (17.4%) |
- 問2 あなたの組の戸数は増える傾向にありますか、減る傾向にありますか。
- | | |
|----------|-------------|
| 1. 増えている | 26 (14.1%) |
| 2. 減っている | 37 (20.1%) |
| 3. 変わらない | 111 (60.3%) |
| 4. わからない | 10 (5.5%) |
- 問3 あなたの組(あるいは近所のわかる範囲でも結構です)の各世帯の家族構成は、次に掲げるうちでどれが多いですか。(1つだけ)
- | | |
|------------------------|------------|
| 1. お年寄りのひとり暮らしあるいは夫婦のみ | 49 (26.6%) |
| 2. 若い人のひとり暮らしあるいは夫婦のみ | 4 (2.2%) |
| 3. 2世代同居(親と子など) | 99 (53.8%) |
| 4. 3世代同居(親・子・孫など) | 15 (8.2%) |
| 5. その他 | 12 (6.5%) |
| 6. わからない | 5 (2.7%) |
- 問4 あなたの組では隣組の行事やおつきあいとしてどんなことをしていますか。(いくつでも)
- | | |
|---------------|-------------|
| 1. お花見など | 84 (45.6%) |
| 2. 葬式の手伝い | 168 (91.3%) |
| 3. 結婚式(招待・参加) | 63 (34.2%) |
| 4. 掃除など | 84 (45.6%) |
| 5. その他 | 19 (10.3%) |
- 問5 組長の主な仕事を書いてください。(いくつでも)
- 問6 組として工夫していることや問題点などがありましたらお書きください。

とんとんとんからの隣組

荒町四三組 組長 本田 忠治

「とんとんとんからりと隣組 格子を開ければ顔なじみ まわしてちょうだい 回覧板 知らせられたり 知らせたり」

戦時中の国民歌謡だが、隣組の助け合う気持ちが良くうたわれた懐かしい歌です。「さんまさんま隣は何をする人ぞ」とは大分ちがいますね。

隣組は社会構成の基本単位、本当に仲良く思いやりと助け合いでつき合いたいものです。



荒町43組の親善旅行

わが隣組は本当に理想的な隣組と自負しています。一月一日の総会と新年会、

問題点と工夫

問五では、組長さんの主な仕事について聞きました。どの組も大きな差はあまりなく、回覧板や配布物の世話、字費などの集金業務、葬儀などの責任者、その他さまざまな連絡などが、主な仕事としてあげられていました。

問六では、組として工夫していることや問題点について答えていただきました。大きく分けて、①回覧板に関するもの、②清掃などの作業に関するもの、③組の行事に関するもの、④その他(組長の仕事など)の

回覧板に関する工夫

- 回覧板を2枚準備して効率化を図っている。
- 配布物の種類が多いときは取り忘れないよう一組にまとめている。
- 濡れても大丈夫なようにビニール袋に入れていく。
- 字の行事の報告事項は自分で回覧を作成している。
- 回覧を回し始める日付など(〇〇さんへ××日にまわしました)を書いておく早く回る。
- 回覧分と取返し分を別に綴じて、取返し分は戸別に宛名をつけるようにしている。また、それに合わせて回覧板の台紙を改造している。

「ゴミ」清掃に関するもの

■ ゴミの集積所の場所が危険なので他の場所を探している。

- ゴミ集積所としての適当な場所があれば、ゴミ箱を設備して清潔にしておきたい。
- 掃除などの奉仕作業に参加しない人が多く困っている。
- 月一回、草むしりや下水掃除の日があり、欠席の場合は千円を出す。そのお金をお花見の費用として使う。

組の行事などについて

- 花見の他にも新年会や旅行などを行っている。
- 昔は、親睦のための集まりが年に二回くらいあったが、ここ十数年はこのような機会がなく、話し合う場が少ない。



八幡町21組の芋煮会の様子

その他(組長の仕事など)

- 皆が仲良くおつきあいができるように、組のためにまめに働いて役に立ちたい。組長は一年間で交代するので、協力してもらった分、他の人が組長になったときに協力をお願いしますない気持ちが大切。
- 一人暮らしの高齢者の多い組なので、全体の安全と和を大切にしている。

- 今後ますますお年寄りの隣組長が増えることに伴い様々な問題が出てくるのでは。
- 各種募金や協力費など、いろいろな集金を組長がするのはどうかと思う。
- わずか六項目のアンケートでしたが、戸数の減少や高齢者の増加などの傾向が見られました。また、交流の面においては、行事の盛

「震災で芽生えたきずな」

夕食の支度をしていたら、お隣の奥さんがみえて「お忙しい時間にすみません。あのう、レモンのお買い置きございません?」

「ハイハイただ今」と言っただものの、冷蔵庫には半分のレモンしか残っていない。丸ごとだったならなあ、と戸惑っていたら「二人ですもの端っ切れで十分なんです。助かりましたわ」と、喜んで帰られた。

ついこの間は近所の方が「田舎からみそを送ってくれましたので少しですけど」と手作りのこうじみそを分けて下さった。

このところいわば、こうした下町風のざっくばらんなおつきあいが続くようになった。毎日をみんな肩寄せ合い生きているんだと実感させられるようで、私はこんな暮らしがうれしくてとても気に入っている。

なな隣組がある一方で、ほとんど交流のない隣組もあり、まちまちでした。高齢化、核家族化、少子化など様々な問題をかかえる現代においては、よくいわれるように「遠くの親戚より近くの他人」のご近所があれば安心です。何かあったらいつでも助け合える、そんなお隣同士になりたいものです。

以前ならばレモンやみそを分け合うなんて想像もできなかったことだ。今では物だけではなく、いつくしみまでいただくような気がする。

思えば大震災を境にして、閉鎖的だった山の手の街にとって、何もかもが一八〇度の転換といえよう。

グラス一杯が貴重だったボトルの水を、一個の缶詰を、隣近所で分け合っていたのいまだあの日々。そのはざまで、だれもがそれと気付かぬうちに芽生えたきずながいとおしくてならない。

一流デパートの包装紙にくるまれたおぎなりのごあいさつより、お勝手へ茶の間へと気さくなおつきあいで心満たされて過ごせる朝夕に感謝している。

兵庫県西宮市
勝 田 ちよ子
主婦・六五才

(平成九年四月一三日付 朝日新聞「ひととき」欄より転載)

部会だより

生活部会の

今年度事業について

生活部会長 須藤 吉雄

生活部会では、「青少年健全育成に寄与する」と言うテーマで活動しております。新年度に入り多少メンバーの入れ替えがありました。七月に第一回の会議を設



ニニココ道路の表示板清掃

け昨年度同様に活発な話し合いになり、その結果本年度事業は大林文庫（新町）のツリーハウス作成の支援とニニココ道路表示板の清掃の実施と決まりました。ツリーハウスとは、立ち木を利用して作る小屋の事です。建設にあたり大林文庫の様子を知るため部会のメンバーが文庫へ行き、子供達やボランティアの方々、今回協力いただいた長沢日大教授、新町の白石清一さんと懇談会をもちました。また、平成五年に設置しましたニニココ道路の表示板の清掃を九月二十七日に実施しました。雑巾、バケツ持参で町内を約二時間かけ二十枚の表示板を清掃してきました。

新設ごみ集積所への

助成金の交付

環境部会長 末永 健二

環境部会では、今年度の事業計画について、ごみ問題の講演会や標語、ポスターの募集、ごみ分別表示板の改訂などの案を検討し、次の計画によって実施をしてきました。

第一に、三春町清掃センターの視察研修を取り上げ、八月七日にごみ分別収集処理の実態の説明を受けたり見学をして来ました。第二は、新設ごみ集積所への助成金の交付を行うことにしました。各字委員長宛で案内した結果、申込み



清掃センター見学

期日の十月十五日迄に三件の申込みがあり、部会で審議の結果、次のごみ集積所へそれぞれ四万円の助成金を交付しました。
一、山中一四番地
二、新町一五五番地
三、深田和地内

三春町名の

石柱設置に向けて

街並部会長 根本 忠



石柱設置について現地調査

昭和六十一年度に「石柱事業の検討」を取り上げ、なかなか、実施できずにおりましたが、今年度の事業として、ようやく実施することとなりました。まず、三春町の歴史の勉

ネットワーク

づくり

老人福祉部会長 橋本 義男

まちづくり協会の老人福祉部会が主になって、区長さん、民生委員さん、老人クラブ代表の方を始め、多くの方々の協力をいただきながら、ネットワークづくりを進めて参りましたが、この仕事は、まちづくり協会が町から要請依頼があつての事でした。

過日、区長、まちづくり協会代表、民生委員代表と、町三役、関係課長出席の会議で、ネットワークづくりの事についての協議の結果、町がまちづくり協会に対しての要請依頼を取り下げることになりました。



ふれあいの集い

この結果、今まで行ってきたネットワークづくりの仕事を取り止めることになりましたので、お知らせ致し、今までのご協力・ご支援に対し御礼申し上げます。なお、今後共、隣近所お互いに声をかけ合い、支え合つてお過ごしになられますようお願い致します。

桜川の改修について

の勉強会

土地利用部会長 加藤正四郎



桜川改修の勉強会

昨年度、土地利用部会では、主に「下水道」と「ゴミ処理」の問題に關しての視察研修と勉強会を行いました。今年度も、「良好な土地利用推進のための情報交換や協議、活動」を目標に八名の

メンバーで活動しています。先日、県中建設事務所から「桜川改修計画」が発表され、説明会が何ヶ所かで開催されましたが、桜川周辺に住んでいる人以外はなかなか説明を聞く機会がありませんでした。そこで土地利用部会では、十月十五日三春町役場建設課から三名の方を招いて「桜川改修計画」について勉強会を開催しました。まちづくり協会の各部会に呼びかけましたところ、約三十名の参加を得たいへん中身の濃い勉強会となりました。年度後半も、土地利用に關する問題について様々な方面から考えていこうと思つていきます。

まちづくりの輪を

広げるために

広報委員会委員 永山 栄子

昭和六十一年に「コミュニティだより」として産声をあげました。町内会の活動、人やサークルの紹介、町の話題等を中心に編集し三春地区全戸に配布しています。今回第二十一号を発刊することができました。

編集会議は、十数回にわたり、それぞれのテーマにより取材、原稿執筆、写真等、役割分担をしてまとめました。限りあるスペースの中で、正確でわかりやすい記事を書くこと、写真の配置、見出しの工夫など、貴重な体



「三春わが街」を編集する広報委員

ご支援下さった多くの人々との出会いに感謝しております。今後も、住民の皆さんとまちづくり協会のパイプ役となれる紙面作りに努めたいと思います。皆さんの感想・意見、今後取り上げてほしい課題・内容などを事務局までお寄せください。

編集後記

隣組についての特集の資料にと、各区分長さんを通し、二一九組の組長さん方に六つの質問のアンケートをお願いしたところ、ご多忙中にもかかわらず一八四組から回答をいただき、記事を書く上で、たいへん参考になりました。

「ご協力を厚くお礼を申し上げます。」

現在、隣組長は一年毎に交代するようですが、このアンケートの結果を参考にされてはいかがでしょうか。たいへん戸数の少ない隣組もあつて組長さんもたいへんかと思ひます。そろそろ隣組の再編を考へる時期にきていますのではないかと考えさせられました。

(佐藤 忠男)

新しく広報委員として、金子豊治朗さん（八島台）が加わりました。

補足

前号「ふるさと再発見」の記事の中で、愛姫生誕の地に碑を建てたのは、「婦人団体」とありましたが、「三春町商工会婦人部」のことですので補足いたします。

コミュニティだより「三春わが街」第二十一号
発行日 平成九年十二月一日
発行 三春まちづくり協会
編集 三春まちづくり協会
編集 三春まちづくり協会
三春町字大町一七八
(六二) 三九八八